



我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力や能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につながることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



永野和宏	案内役	望月太意三郎	鳴り物	鶴澤津賀榮々	鶴澤三寿々	三味線	竹本綾一	竹本越孝	義太夫	眞野トウヨウ	土屋渚紗	結城まりな	結城民子	結城一糸	江戸伝内	人形遣い
------	-----	--------	-----	--------	-------	-----	------	------	-----	--------	------	-------	------	------	------	------



糸あやつり人形一糸座について

糸あやつり人形一糸座は、江戸時代から続く日本の伝統芸能（人形浄瑠璃）を継承している劇団です。江戸伝内（三代目結城一糸）が、江戸系糸あやつり人形の結城座から2003年に独立し、新たに立ち上げました。一糸座は日本国内の公演だけでなく、海外でも公演を行うなど、国内外に糸あやつり人形を広め、未来へ繋いでいく活動をしています。フランス、イタリア、チェコ、スロバキア、ドイツ、ノルウェー、スイスなど多くの国で、たくさんの人たちに糸あやつり人形の魅力を伝えています。



公演：糸あやつり人形 一糸座

制作：一般社団法人一糸座

〒187-0043 東京都小平市学園東町1-7-41 ナカムラビルB1F
TEL:042-313-5205 FAX:042-313-5203
HP:https://www.issshiza.com E-mail:info.issshiza@gmail.com

人形浄瑠璃

糸あやつり人形一糸座公演



【演目】

- 東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～
- 橋弁慶
- 本朝廿四孝～奥庭狐火の段～



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会



日本の人形はどこからやってきた？

昔、人形を見せながら旅をする傀儡族という一族がアジアの西の方のアフガニスタンやパキスタンあたりで生まれ、シルクロードを通過して中国や朝鮮半島を渡り、7～8世紀ころに、東の果ての日本にやってきました。それが日本の人形のルーツだと言われています。現在の九州にある古要（古表）神社に伝わっている相撲人形が、残っている一番古い人形です。その人形が文楽のような手操りと糸で動かす糸あやつり人形に進化していきました。



相撲人形の模型

人形浄瑠璃とは？



三味線に合わせて太夫が物語を語る浄瑠璃に、人形遣いが人形をあやつって演じる、この三つが組み合わさってはじめて人形浄瑠璃となります。糸ではなく三人の人が直接人形をあやつる手操り（文楽など）が世界的にも有名ですが、糸あやつり人形の人形浄瑠璃も江戸時代からたくさんの人達に楽しまれてきました。太夫の語りに合わせて人形を遣うのが一般的ですが、結城系の人形では、一糸座代表の江戸伝内の祖父・九代目結城孫三郎により、人形遣いがセリフを言う歌舞伎仕立ての上演方法が編み出され、人気となりました。



日本の糸あやつり人形とは？

海外にも糸であやつる人形（マリオネット）はありますが、日本の糸あやつり人形と全く同じものではありません。大きな違いは手板（コントローラー）の形です。一糸座に伝わっている結城系の手板は四角い形のもので、これは日本以外にはありません。また、日本独特の仕掛けといえば、息遣いの糸があることです。日本の糸あやつり人形は人形浄瑠璃の繁栄とともに発展してきたので、登場人物の気持ちを丁寧に表現するために、繊細な動きができるようになりました。歩いたり座ったり、正座をしてお辞儀をしたり、お話を聞くときにうなずいたり。こういった細かい動きができるので、海外の人たちも、まるで人間が動いているような日本の糸あやつり人形にとっても驚かれます。



東海道中膝栗毛

～赤坂並木から卵塔場まで～

弥次郎兵衛と喜多八は、ヒョンな事から江戸を飛び出し、上方に向けて呑気な旅を続けています。赤坂の宿はずれの並木道。日も暮れてあたりが薄暗くなり、二人は道を間違えて卵塔場（墓場）に迷い込んでしまいます。

臆病な二人はそこにやって来た子どもを一目小僧と間違え殴ってしまい、驚いた子どもは大号泣。するとその声を聞きつけたおじいさんがやって来て、弥次郎兵衛の胸ぐらをつかみ、なぜ孫を殴ったと問い詰め…。弥次郎兵衛、喜多八の道中記を、軽妙な江戸前のセリフと浄瑠璃でお楽しみ頂きます。人形遣いがセリフをしゃべる歌舞伎仕立ての人形浄瑠璃です。

牛若丸は、京都五条大橋で毎夜通行人に腕だめしを挑み、家来にすべき勇士をさがしています。一方、比叡山の武蔵坊弁慶は、五条大橋で通行人を悩ます者の噂を聞き、これを捉えようと五条大橋でやって来て、牛若丸と出会います。牛若丸が腕試しに弁慶の大薙刀の柄を蹴り上げると、怒った弁慶は薙刀を振りかざして切りかかりますが、牛若丸はヒラリヒラリと橋の欄干を飛び廻り、とうとう打ち負かしてしまいます。弁慶はその若者が牛若丸と聞いて降参し、主従の契りを結びます。義太夫語り・三味線に合わせて、本格的な人形浄瑠璃をご覧頂きます。



橋弁慶



本朝廿四孝

～奥庭狐火の段～



許婚・勝頼の命の危機を知った八重垣姫は、勝頼に危険を知らせたいと考えますが、凍った湖には船は出せず、陸路では間に合いません。諏訪明神に頼るほかはないと、諏訪法性の兜に「勝頼様の命を助けてください」と一心に祈願する八重垣姫の前に、明神のお使いである白狐の姿が現れます。狐が守護する兜があれば、氷の上を渡れるはずと八重垣姫は兜を手に湖を渡り、勝頼の元へ急ぎます。糸あやつり人形ならではの、女形の美しい所作をお楽しみください。





れいわ ねんど がっこうこうえんじゅんかいじぎょう
令和5年度 学校公演巡回事業



我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力や能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



人形遣い
江戸伝内
結城一系
結城民子
結城まりな
土屋清紗
眞野トウヨウ
義太夫
竹本越孝
竹本綾一
三味線
鶴澤三寿々
鶴澤津賀榮々
鳴り物
望月太意三郎
案内役
永野和宏

いと にんぎょう いっしざ
糸あやつり人形一糸座について

糸あやつり人形一糸座は、江戸時代から続く日本の伝統芸能（人形浄瑠璃）を継承している劇団です。江戸伝内（三代目結城一系）が、江戸系糸あやつり人形の結城座から2003年に独立し、新たに立ち上げました。一糸座は日本国内の公演だけでなく、海外でも公演を行うなど、国内外に糸あやつり人形を広め、未来へ繋いでいく活動をしています。フランス、イタリア、チェコ、スロバキア、ドイツ、ノルウェー、スイスなど多くの国で、たくさんの人たちに糸あやつり人形の魅力を伝えています。



公演：糸あやつり人形 一糸座
制作：一般社団法人一糸座 〒187-0043 東京都小平市学園東町1-7-41 ナカムラビルB1F
TEL:042-313-5205 FAX:042-313-5203
HP:https://www.issshiza.com E-mail:info.issshiza@gmail.com

れいわ ねんど がっこうこうえんじゅんかいじぎょう
令和5年度 学校公演巡回事業

にんぎょうじょうり
人形浄瑠璃
いと
にんぎょう いっしざ こうえん
糸あやつり人形一糸座公演



【演目】

- とうかいどうちゅうひざくりげ あかさかなみき らんとうぼ
東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～
- はしべんけい
橋弁慶
- ほんちょうにじゅうしこう おくにわきつねび だん
本朝廿四孝～奥庭狐火の段～



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会



にほん にんぎょう 日本の人形はどこからやってきた？

むかしにんぎょう み たび くくつそく いちそく にし ほう
昔、人形を見せながら旅をする傀儡族という一族がアジアの西の方の
アフガニスタンやパキスタンあたりで生まれ、シルクロードをとおって
中国や朝鮮半島を渡り、7~8世紀ころに、東の果ての日本にやってきました。
それが日本の人形のルーツだと言われています。現在の九州
にある古要（古表）神社に伝わっている相撲人形が、残っている一番
古い人形です。その人形が文楽のような手操りと糸で動かす系あやつ
り人形に進化していきました。



すもうにんぎょう もけい
相撲人形の模型

にんぎょう じょうり 人形浄瑠璃とは？



しゃみせん あ たゆう ものたり かた じょうり にんぎょうつか にんぎょう
三味線に合わせて太夫が物語を語る浄瑠璃に、人形遣いが人形
をあやつって演じる、この三つが組み合わさってはじめて人形
浄瑠璃となります。糸ではなく三人の人が直接人形をあやつる
手操り（文案など）が世界的にも有名ですが、糸あやつり人形
の浄瑠璃も江戸時代からたくさんの人達に楽しまれてきま
した。太夫の語りに合わせて人形を遣うのが一般的ですが、結
城系の人形では、一系座代表の江戸伝内の祖父・九代目結城孫三郎により、人形
遣いがセリフを言う歌舞伎仕立ての上演方法が編み出され、人気となりました。

にほん いと にんぎょう 日本の糸あやつり人形とは？

かいがい いと にんぎょう
海外にも糸であやつる人形（マリオネット）はありますが、日
本の糸あやつり人形と全く同じものではありません。大きな違
いは手板（コントローラー）の形です。一系座に伝わっている
結城系の手板は四角い形のもので、これは日本以外にはありま
せん。また、日本独特の仕掛けといえば、息遣いの糸があるこ
とです。日本の糸あやつり人形は人形浄瑠璃の繁栄とともに発
展してきたので、登場人物の気持ちや動きを丁寧に表現するために、
繊細な動きができるようになりました。歩いたり座ったり、正座をしてお辞儀を
したり、お話を聞くときになすいたり。こういった細かい動きができるので、
海外の人たちも、まるで人間が動いているような日本の糸あやつり人形にとても
驚かれます。



とうかいどうちゅうひざくりげ 東海道中膝栗毛

あかさなみき らんどうば
～赤坂並木から卯塔場まで～

やしろべえ きだはち
弥次郎兵衛と喜多八は、ヒョンな事か
ら江戸を飛び出し、上方に向けて呑気
な旅を続けています。赤坂の宿はすれ
の並木道。日も暮れてあたりが薄暗く
なり、二人は道を間違えて卯塔場（墓
場）に迷い込んでしまいます。

おくびょう ふたり
臆病な二人はそこにやって来た子どもを一つ目小僧と間違え殴
ってしまい、驚いた子どもは大号泣。するとその声を聞きつけ
たおじいさんがやって来て、弥次郎兵衛の胸ぐらをつかみ、な
げ孫を殴ったと問い詰め…。弥次郎兵衛、喜多八の道中記を、
軽妙な江戸前のセリフと浄瑠璃でお楽しみ頂きます。人形遣い
がセリフをしゃべる歌舞伎仕立ての人形浄瑠璃です。

うしわかまる きょうとごじょうおほし まいようこうにん うで
牛若丸は、京都五条大橋で毎夜通行人に腕だめしを
挑み、家来にすべき勇士をさがしています。一方、
ひえいざん わさしほうけんけい ごじょうおほし つうこうにん なや
比叡山の武蔵坊弁慶は、五条大橋で通行人を悩ます
者の噂を聞き、これを捉えようと五条大橋にやっ
て来て、牛若丸と出会います。牛若丸が腕試しに弁慶
の大薙刀の柄を蹴り上げると、怒った弁慶は薙刀を
振りかざして切りかかりますが、牛若丸はヒラリヒ
ラリと橋の欄干を飛び廻り、とうとう打ち負かして
しまいます。弁慶はその若者が牛若丸と聞いて降参
し、主従の契りを結びます。義太夫語り・三味線に
合わせて、本格的な人形浄瑠璃をご覧頂きます。



はしべんけい 橋弁慶



ほんちょうにじゅうしこう 本朝廿四考

おくにわきつねび だん
～奥庭狐火の段～



いいなづけ かつより いのち き き し やえがきひめ かつより
許婚・勝頼の命の危機を知った八重垣姫は、勝頼に
危険を知らせたいと考えますが、凍った湖には船は
出せず、陸路では間に合いません。諏訪明神に頼る
ほかはないと、諏訪法性の兜に「勝頼様の命を助け
てください」と一心に祈願する八重垣姫の前に、明
神のお使いである白狐の姿が現れます。狐が守護す
る兜があれば、氷の上を渡れるはずと八重垣姫は兜
を手に湖を渡り、勝頼の元へ急ぎます。
糸あやつり人形ならではの、女形の美しい所作をお
楽しみください。